

発寒ひかり
保育園だより

2022年
10月号

巻頭言

私の勤める発寒ひかり保育園に、生後6か月で入園した娘も、あつという間にきりん組（年長）になりました。妊娠中からたくさんの子にお腹を撫でてもらい、産まれてからも優しく声をかけ可愛がられながら異年齢保育の中で育った生粋の「ひかりっこ」です。共に保育園に通い生活する日々が、あと半年で終わってしまうと思うと、とても寂しく思います。先日、家族で出かけた公園で1歳の女の子に出会いました。まだよちよち歩きのその子に娘はそっと近付き、「だいじょうぶ？て、つなごうか？」と手を差し出し、声をかけました。女の子は驚いた様子でしたが、娘の顔をじっと見つめた後、手を伸ばし、ぎゅっと手を握り返してくれたのです。その後は、「どっちいく？」と娘が優しく声をかけながら、一緒に階段を登ったり、すべり台を滑ったりして楽しそうに遊んでいました。初めは固い表情だった女の子も、娘を追いかけるようになり、笑顔になっていました。そんな二人のやりとりにとっても心が温まったのと同時に、発寒ひかり保育園で過ごす日々の経験が、娘の行動に自然と表れたのだろうと、とても嬉しく思いました。

当園では、「みんなきょうだい大きな家族」をテーマに、0～5歳の異年齢保育を行っています。毎日の生活を共にするファミリーでは、大きい子が小さい子を思いやり、お世話する姿が当たり前のようにみられ、また、小さい子もお兄さんお姉さんを慕い、憧れの気持ちを持って過ごしています。

豊かな人間関係の中で、自分と他者を大切にできる心が育まれる「ひかりっこ」たちを、これからも保護者の皆さんと一緒に、大切に育てていきたいと思えます。

とまとファミリー・ことり組担任 青山 伊津美